

平成 21 年度第 3 回 経済学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 9 月 14 日(月) 午後 2 時から午後 4 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：林委員長、中嶋、望月、山田、児島
井端事務局長、森下、恩田
- IV. 検討事項

検討事項 学士力の詳細設計について

はじめに、委員より「経済学部の学士力の到達目標(案)」(資料①)の説明がなされた。その後、種々の意見交換がなされた。その中で、各項目でミニマムリクワイアメントを出しておき、これらを到達度として明示してはどうか、また、各到達度が測定評価しやすいようにすべきであるという意見が示された。

そこで、上記の点に留意しながら、前回までに示された 6 項目について到達度とコアカリのイメージを検討した。まず、到達度として、「最低限、何ができるか」ということを明示し、各項目につき 3 つ程度にまとめた。次に、コアカリのイメージは、専門基礎を扱う範囲を列記するが、詳細な科目名までには言及しないよう配慮した。また、6 項目のうち「経済倫理」については、経済学部の学士力として必要な内容であるものの、到達度の明示や具体的な測定方法、コアカリのイメージが困難であるという理由から割愛した。委員会で検討した結果は、別添資料のようである。

最後に、今後の評価方法の作業にあたって以下の点が確認された。知識の量は大学間の標準的な練習問題を作成して利用する。知識の応用・活用は、ゼミの発表や第三者評価を念頭にした大学連携の発表、企業の専門家による講評などを用いる。

次回は、今回作成した到達度の素案を精査し、測定および評価方法を検討することとした。

宿題

委員会で作成した案を精査するとともに、測定および評価方法を加えた素案を作成することとした。素案を元に次回の委員会で検討し、決定する。素案の締め切りは、10 月 19 日(月)まで。

次回の委員会

10 月 24 日(土) 11 時～13 時とした。

経済学部の学士力の到達目標（案）

1. 日常の経済生活や経済全体の基礎的な理論を理解できる。

経済の仕組みや動きを実体経済・金融の両面で、身の回りから国全体・世界全体まで相互依存関係として理論的に理解できる。

コアカリのイメージ： 経済学入門、ミクロ経済学、マクロ経済学など

到達度：

- 身の回りの経済現象について関心を持つことができる。
- 国全体・世界全体の経済現象についても関心を持つことができる。
- 経済現象の動きや仕組みについて経済学の考え方で理解することができる。
- 経済現象を他者にわかりやすく説明できる。

2. 経済の歴史や制度と今日の経済情勢の知識を身に付ける。

過去から現在に至る経済の歴史や制度を踏まえ、資料を援用して、現実の経済情勢を客観的に理解できる。

コアカリのイメージ： 経済史入門など

到達度：

- 経済の歴史や制度に関心を持つことができる。
- 重要な過去の経済現象や現実の経済情勢を歴史の流れの中で理解できる。
- 歴史的現象を意識して、今の経済現象に関連付けて考えることができる。

3. 国内外のさまざまな経済政策の基礎的な知識を理解できる。

コアカリのイメージ： 経済政策など

到達度：

- 身近な経済生活に影響を与える政府の政策や規制に対して関心を持つことができる。
- 中央および地方の政府の役割を理解できる。
- 経済政策の種類と効果について考えることができる。

4. 経済データの意味を理解し、必要なデータを収集・整理して、統計的な処理ができる。

コアカリのイメージ：

到達度： 経済統計など

- 経済現象の理解に必要な基本的な経済指標のおおよその規模や水準を知っている。
- インターネット上の官公庁や信頼できるサイトから適切な情報をみつけることができる。
- データの平均・分散や相関、簡単な回帰分析などの基本的な統計的処理ができる。

5. 経済学の考え方を活用して、自主的な意思決定を行うことができる。

コアカリのイメージ： ゼミ、研究発表、卒論、グループ学習など

到達度：

- 経済学を身近な問題や関心のある経済現象に応用できる。
- 経済の理論や法則、モデルを踏まえて、経済事象の因果関係等を説明できる。
- 自分の将来の職業選択やキャリア設計に経済学の考え方を応用できる。